

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系・助教

氏 名 岩本 佳世

研究期間 令和元年度

研究プロジェクトの名称	読み書きに困難が見られる児童が在籍する通常学級における学習支援： 英語の授業での音韻意識指導の効果
研究プロジェクトの概要	日本においては、2020年度から小学校で英語が教科化され、それに伴って小学校の高学年で英語の読み書き指導が行われる（文部科学省，2014）。英語の読み書き習得については、音素における粒状性の細かさと不透明さから、日本語の読み書き習得と比較して難易度が高いことが指摘されている（銘苅・中山，2018）。そのため、日本語の読み書きでは困難が見られなくても、英語の学習が始まると読み書き障害が顕在化する児童のいる可能性が考えられる（春原ら，2004）。そこで本研究では、日本における読み書きに困難が見られる児童生徒に対する英語の指導事例に関する先行研究を概観し、英語の読み書き指導の成果と課題について、文献的検討を行うことを第一の目的とした。読み書きに困難が見られる児童が在籍する通常学級を対象に、英語の授業で音韻意識指導を導入し、英単語の読み書きテスト成績への効果を検討することを第二の目的とした。
研究 成 果 の 概 要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>小学校英語において、読み書きに困難が見られる児童を含む学級全児童への音韻意識指導は、新たな教育課程での指導方法の開発（21世紀を生き抜くための能力+α）となり、今後活用されるであろうことが想定できる。</p> <p>読み書きに困難が見られる児童生徒に対する英語の指導に関する事例の先行研究を概観した結果、論文数は7編と限られており、検出された論文の多くは、英語の指導法についての研究や発達性読み書き障害の認知特性に関する研究であった。分析対象とした論文数は限られていたが、実施されていた指導は、フォニックス、多感覚学習法、及び見本合わせ法であった。</p> <p>小学校通常学級を対象とした英語の授業での実践研究は、学校休校のため、中止せざるを得ない状況となった。令和2年度に研究対象校において小学校通常学級における英語の授業での実践研究を再開していく予定である。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	本研究結果の一部が上越教育大学研究紀要第39巻第2号に掲載された。また日本LD学会第3回研究集会（神戸国際会議場）において研究結果の一部について発表を行った。実践研究結果についてはデータ収集後に学術専門誌に投稿予定である。
学校現場や授業への研究成果の還元について	本学で開設している授業（修士課程：「発達障害教育総論」、教職大学院：「教科等の学習活動における困難の実態と支援」）において、発達性読み書き障害のある児童生徒の理解と支援についての講義・演習を行う。また学校支援プロジェクトでの実践を通して、大学院生とともに、読み書きに困難が見られる児童に対する英語の指導方法を提案し、学校現場の先生方と協議し、より良い支援を児童たちに提供していく。